

機関紙

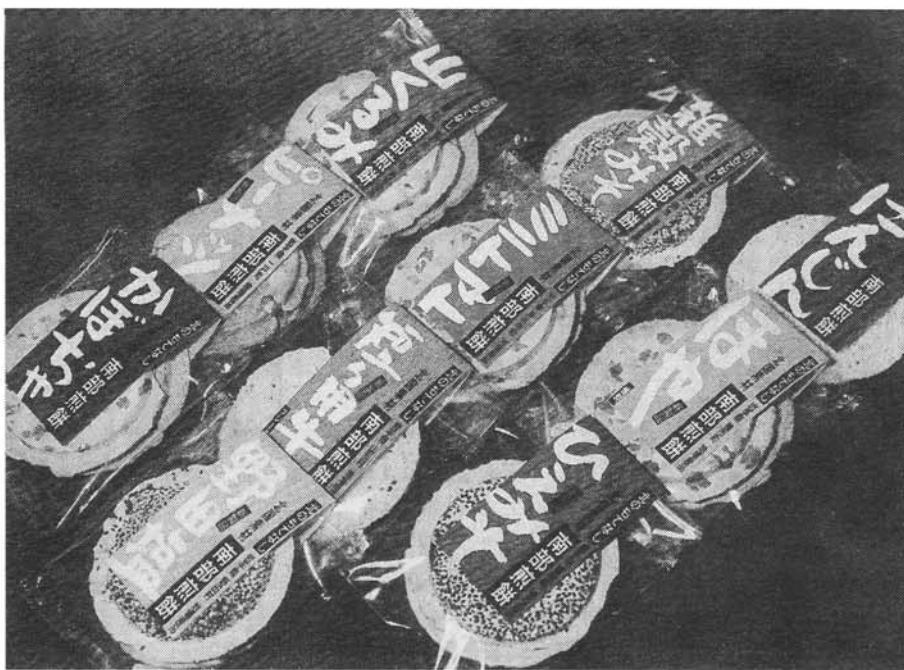
丸戸城

第 32 号

発行 二戸市商工会青年部 二戸市福岡字横丁24
URL: http://www.shokokai.com/ninohe TEL 2 3-4 3 6 1

活かそう 我が町 我が史跡

岩手県北部10市町村の商工会青年部合同でそれぞれの地域の特産品をベースにした商品を開発し販売することを目的としてスタートしたこの企画ですが、様々な意見が出され商品の絞り込みに苦労しながら最終的にせんべいを作る事になり進めております。



当青年部では試作品として小松製菓さんのご協力をいただき、やさきとり、ホップ、雑穀みそ味等のせんべいを作りました。試作品をナニヤートで実際にお客様に試食して頂きアンケートをとりました。その結果、やさきとりせんべいは固すぎてお年寄りの方等には食べづらく、味も鶏肉が入っていますが分らない等不評でした。

た。まだ、どのせんべいを二戸からの商品にするか決まっておせんが他にも何か良い物があればと試行錯誤を続けております。他では種市のほやせんべい、山形村の短角牛せんべい等変わり種の物が面白くせんべいの詰め合わせの物が出来そうです。パッケージはそれぞれの地域の方言と名所のイラストを書き込みデザインされています。おおよその形が出来上がってききましたので何とか商品化して販売までこぎつけるように進めていきたいと思います。もしも、販売する事が出来た時は是非みなさんにも味わっていただきたいと思っておりますので宜しくお願いします。

産声を上げた特産品開発
下堀 孝男

毎年恒例の商工会青年部交流野球大会。今年度は二戸がメイン会場となり、大会の主管を我々二戸市商工会青年部が中心となり、北部ブロック(県北10市町村)青年部の協力を基に二日間盛大に行われました。この野球大会は我々青年部にとって、とても有意義な行事となりました。ひとつは、地域特産品開発等で一緒になって取り組んでいる北部ブロック各青年部から協力を得て行えたこと。特に二戸広域五市町村の青年部には、準備段階から本番当日まで多大な協力を頂き、広域での連携プレーに将来性と力強さを感じ取りました。

それともうひとつは、部員間の親睦を深められたこと。実は我々青年部には野球チームはありませんでした。当初、県の青年部連合会から野球大会の申し出があったときは、主管として大会運営に徹するつもりでしたが、商工会会長より「地元で開催するのだから、出場したほうがいい」とのアドバイスを受け、戸惑いながらもチームを結成することになりました。ユニホームは旧金田一商工会で十年前前に購入していた物を使わせてもらい、メンバーは部員の

中から朝野球や社会人野球で活躍している現役プレーヤー数名、キャッチボールだけはできるという素人同然の部員までかき集め、何とか補欠を含め十一名体制を作りました。この即席チームが、野球大会の常連と言われる強豪チーム相手にどこまで戦えるか。結果は予想通り一回戦敗退で終わってしまいました。しかし今回の大会出場は勝ち負けよりも、もっと大事なことを教えてくれました。それは最初に言った部員間の親睦を図れたこと。また部員の意外な側面を見ることができたこと、そして時には楽しむことも必要だということ。まさに商工会会長の真意はこれだったのかと今になって感じています。我々商工会青年部は、地域振興事業への参加・協力が活動の基本です。けれど、活動している我々も楽しみがなければいけない。わたしは今年度「何事も楽しくやろう青年部」というスローガンを立てていました。来年度も同じスタイルで、そして、またどこかで野球大会が開催されます。今度は我々が遠征する番。また部員のみならず「楽しみたい」と思っています。



「勝てるの?」野球チーム結成
熊野 正城

わたしと九戸城

熊野正城

わたしは歴史が得意ではなかった。それは「テストのたびに年号や人物の名前を覚えるのが苦手だったから」と言うか、ほぼ丸暗記の教科に嫌気があったから……。

社会人になった現在はどうか。

歴史は好きです。特に、歴史上の人物の人間性に興味があります。そして、その人物が周りにどの様な影響を与え、時代がどの様に変化したのかを知ることが楽しさを感じています。これも歴史の楽しさの一方のひとはではないでしょうか。

恥ずかしながらわたしは、生まれ育ったところが石切所だったために、中学校まで九戸城という存在を詳しく知らなかったし、それほど興味もありませんでした。初めて興味を持ったのが中学校三年生の文化祭の時で、わたしのクラスでは展示品として九戸城のミニ

「いや、もっと大きい天守閣かもしれないぞ」と、夢は勝手に膨らんでいきましたが、結局分らずじまいでも飾り付けをしないまま展示をしてしまったのは残念なことでした。

でも楽しかった。歴史の授業よりも楽しかった。決してミニチュア製作が楽しかった訳ではありません。自分達の生まれたこの土地に実在した、リアルな歴史を自分の足で調べながら現場に行ってみて、目で感じ、肌で感じ、教科書では教えてくれない「生きた歴史」を体験できたからです。周りの風景は今とは違っていただけでしょうが、目の前にお堀、土、木々、それらは「何百年前からも変わらずにそこに実在していた」と思うことにより、言葉では言い表せられない感動となったのです。

私にとって今の子供達は幸せだと思います。それは九戸城政史に関する本が出版され、テレビや演劇の分野でもクローズアップされ、

その時代背景のアウトラインが徐々に明らかになっていくこと。また、年々進む九戸城跡地の発掘調査も、より詳しい歴史を知る上での重要な手掛かりとなります。当時の私たちに、これだけの「財産」があれば、また一味違ったミニチュアが創造できたかと思えます。是非、今の子供達にも現代の九戸城を創造して欲しいと思います。「学ぶことは知ること」自分達の生まれた土地の歴史を知ることが何にも勝る勉強だと思われ、かけがえのない財産になると思います。その為には我々大人は、次の世代の子供達に、楽しみながら地元の歴史を学ぶ機会を作らなければならぬのではないのでしょうか。

そして子供達には、これから先大人になりこの土地を離れ、どこか遠くへ行くことになったとしても「自分の生まれた故郷にはこういう歴史や財産があるんだ」と胸を張って言える「二戸の宝物」になって欲しいと思うのです。

仮想企業を経営して

平浩

参加決定の数日前のことである。商工会事務局の青年部担当者から、いつもの焦った口調でこの行事の参加依頼が舞い込んだ。どうやら部長が出席できなくなったので、代わりに参加できる部員を探しているようだった。「何それ、内容は？」「あ、え、え、あ、えっ」とです。ね(略)「なるほど、要するに、経営戦略ボードゲーム風なことをパソコン使って戦う訳ね？」

それで俺の他に(青年部から)何人参加するの？「すみません。平さん一人になりそうなんです」

「なぬー、勘弁してけろじゃー俺一人かいつ」と一応突っ込んだが、以前に似たようなゲームの世界大会をNHKで見ていたので、少しだけ興味があったし、かつて自分

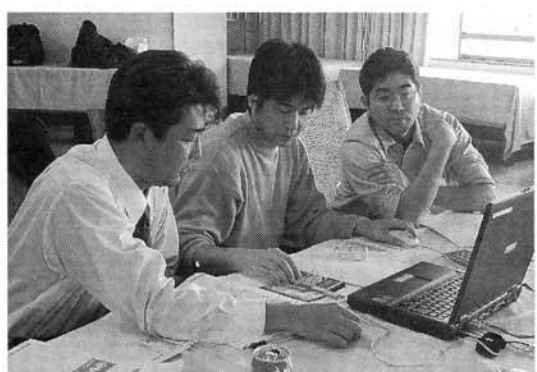
勝てず参加することになった。この研修は、「経営シミュレーション」と銘打たれ、県内の商工会青年部(県青連)の企画で各地区から十名集まってきていた。その中で数人は話した事があるくらいで、特に打ち解けて話した事もない人ばかりだった。

一チーム三人から四人のチームに分けられテーブルごとに座らされた。隣に座った人と名刺交換をする。清水さんという自ら印刷業を営んでいる大迫町商工会青年部の部長さんだった。そしてもう一人の人は砂子さんという、岩泉町で実家の酒屋を手伝いながら、何か別の事業をやってみたいという人であった。

ゲームが始まった。ルールは各チームがお互いイメージとしては、

カメラの製造メーカーの経営陣になり四半期の決算を通じてより大きく利益を上げたチームが優勝という一見、簡単そうなゲームである。本番が始まる前にまずは会社の概要を決め、我がチームの会社名は「皆の意識を集結しそれぞれが奏でる」という意味で「シンフォニー」とした。代表取締役を清水さん、販売担当に砂子さん、そして自分が生産部門である。経営理念は「不易流行の精神で堅実経営を目指す。サービスの提供によりお客様との距離を縮める」にしました。

研修期間二日間に及ぶ仮想企業の経営シミュレーションゲームの結果は、四半期を通じて2位をキープしながら結局は最後までトップに躍り出ることが出来ませんでした。広告、営業マンの配置といった営業戦略的な要素を始め、開発等による品質管理や就業時間を超過するとどんどん退職者が出て行



くというマイナス要素も加わり、当初の自分の予想を反するかなりシビアなゲームでした。

二日間のカンヅメ研修でしたが、ほかの地域の人達と徐々に打ち解けあい交流を深めることができたので、私にとって研修以上に有意義なものとなりました。

部員の店紹介

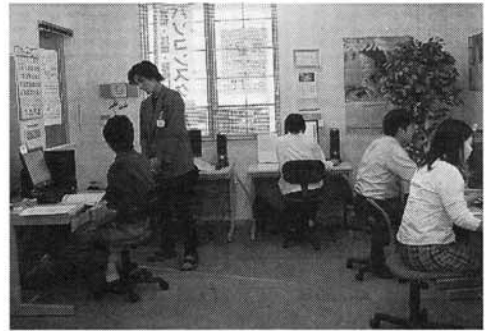
ジップス二戸校

平浩

ジャパン・インターネットパソコンスクール二戸校(ジップス)です。受講者様に置かれましてはお世話になっております。

まだの皆様は宜しくお願い致します。ジップス二戸校は仙台に本部を置くJIPSグループのFC41号店目として昨年11月に無事オープンする事が出来ました。

まだまだ知名度的に低いらしく未だそんな所あったのというご意見をいただいている次第です。最近日曜日も開校してほしいという意見を聞きますが、皆様いかがでしょうか？やはり日曜日も開校したほうがいいでしょうか？何でもいいのでご意見お待ちいたしております。E-mail: ninohe@jips.jp



http://www.excelgarden.net/

(有)小保内工務店

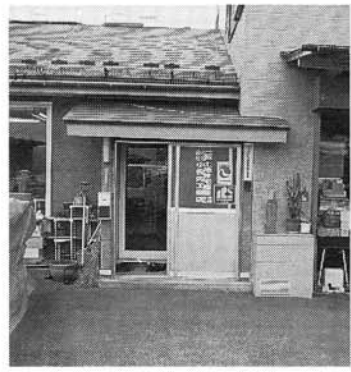
小保内 雅 男

電話 二二二-二四五七
(有)小保内工務店は創業当初、便利大工として私の父親で8代目となる地域に根付いた工務店です。より快適な住まいづくりを目指し、床暖房やウォシュレット、ユニッ

トバス、ソーラーシステムなどをいち早く導入し、安心して喜んで住んでいただける家づくりを目指しています。

家づくりで最も重要であるアフターケアとメンテナンスはいつでも安心出来るようにがんばります。困っていることなどありましたらすぐにご相談下さい。家は何回も建てられるものではありません。納得、そして大安心の家、満足のいくあなたに合った家づくりをしてみませんか？「小保内さんに頼んで良かった」そう言ってもらえる自信があります。

他にも不動産、二戸土地住宅産業(有)も取り扱っていますので、アパート、土地などをお探しの際にもどうぞお気軽に声を掛けてください。



新入部員紹介

- 佐久間 光夫 (阿部農機株)
- 上高山 利隆 (有)フォトスタジオ高山
- 上平 一郎 (有)漆原保険事務所
- 小原 美範 (山長果樹園)
- 中村 宏元 (中村電工)